

2006. 7. 14 第 28号

—平成 18 年 八幡製鐵所「夏季ゼロ災安全祈願祭」斎行—

主催：新日本製鐵(株)八幡製鐵所

新日本製鐵(株)八幡製鐵所ならびに、新日鐵八幡労働組合、(社)八幡製鐵安全衛生協力会、新日鐵八幡関連労組協議会合同による「夏季ゼロ災安全祈願祭」が、さる 7 月 5 日、北九州市八幡東区の「高見神社」において執り行われた。

同祈願祭には、八幡製鐵所 浜本康男所長(総括安全衛生管理者)、同所 山本郁也副所長、八幡労働組合 品川浩二書記長、八幡製鐵安全衛生協力会 安西雄志会長(吉川工業取締役八幡支店長)、八幡関連労組協議会 渡辺好造議長(吉川工業八幡支店労働組合組合長)以下関係者 300 余名が参列した。

浜本所長は、祈願祭において「皆さん、ご安全に！ただいまこの



安全は全員参加の活動と訴える浜本所長



「重大災害ゼロ必達の祈願」を行う関係者一同

す。安全は全員参加の活動です。全員がどうしたらもっと災害をなくせるかを考えて実行していけば災害は根絶できます。一緒にがんばって行きましょう。ご安全に！」と語った。

また、安西会長は、「7 月に入り、夏場特有の災害リスクの高まる季節がやってきました。この 2 ヶ月間はこれまで以上に管理、監督者の皆様は現場に出向き、現場第一線の社員と対話を重ね、風通しの良い安全活動を直協・労使一体となって推進すべきではないでしょうか。そういう願いを込めてバッチリ唱和をします。『総対話の推進と思いやりのある相互注意を実践して、年後半の無災害実現に向けて、バッチリ行こう！』と安全唱和で締めくくった。

高見神社で皆さんと一緒に謹んで今年二回目の安全祈願をおこないました。今年は重大災害ゼロの悲願を掲げて取り組んでいる。その為に必要なことは『設備を良くすること』『作業を良くすること』『行動を良くすること』、この三つをすべて同時に進めて行くことです。これ以外に災害をなくす手立てはありません。設備を良くする事と作業を良くする事については、リスクアセスメントや作業標準書の改定と追加を、行動については現場第一線の方々との総対話を着実に実施して行くことが大切であると思う。そして、もっとも大切なことは、全員の一人一人が“自分がどうしたらもっと災害をなくせるか。安全に貢献できるか”ということを考えて実行することで



安全への願いを込めて“バッチリ唱和”
を行う安西会長